

「作品（自分）とじっくり向き合い、自分の感じ方や考えを深めてほしい」「答えがない鑑賞だからこそ共感的に人の感じ方や考えを受け入れてほしい」「自分が感じたことや考えたことを素直に皆に伝えてほしい」という教師の願いから学習が始まった。

- ◎鑑賞「みる・はなす・きく・かんがえる・つたえる」
- ◎作品から言葉を拾おう ◎神奈川県立近代美術館へ行こう
- ◎水面をみつめよう ◎美術館をつくろう ◎1年生と交流しよう

ある児童がクラスで育てようと「ガジュマルの樹」を持ってきた。学習は沖縄のガジュマルの樹に住む妖怪「キジムナー」の調べ学習から始まった。

- ◎「島人ぬ宝」を探そう
- ◎◎沖縄の伝説や文化を調べよう ◎琉球大学附属小学校との交流 ◎沖縄旅行記を書こう ◎長寿料理を作ろう ◎◎おんがく会で「島人ぬ宝」を歌おう

4月9日 6年1組 スタート

卒業の年。うんどう会、宿泊生活、こすもぴあ、おんがく会を最高のものにした。

宿泊生活では、行けることなら1組はずっと学習してきた「沖縄」に行ってみよう。

宿泊生活は八ヶ岳に決定した。充実させるためには沖縄のように八ヶ岳周辺に行きたい場所、行くべき場所をみつけないと。調べてみよう。

Eさんが「無言館に絶対行くべき！」

無言館ってすごい名前だなあ。Eさんは何故あそこまでこだわっているのさ？気になるから調べてみようよ。

Eさんは5年生の時に観た無言館のテレビ番組に感銘を受け、八ヶ岳の生活に向けて提案しようと半年間温めていた。

戦没画学生慰霊美術館らしい。5年生の時から続けている美術館での鑑賞学習と太平洋戦争の学習のまとめとしてふさわしい。

◎◎「沖縄戦」◎

- ◎太平洋戦争
- ◎「ひめゆり学徒隊」
- ◎「特攻隊」
- ◎映画「月光の夏」観賞

戦争は将来ある人の命だけでなく夢や希望、家族、大切な人までも奪った。本当に何も残らない。「月光の夏」の特攻兵は人々の心に「音楽」を残せたことがせめてもの救いだと思った。

沖縄は明るくて楽しい部分だけではない。沢山の悲しい歴史がある。6年生では沖縄戦から学習していこう。

5年生の時の「沖縄旅行記」の中で「ひめゆり記念館」に行った。沖縄戦を学習する上でひめゆりは欠かせない。

「特攻隊」も欠かせない。話は聞いたことがあるけど、詳しくはわからないな。

5月

戦没画学生慰霊美術館 無言館に行こう

個人の思いの感じ方や考えだけでなく、絵が描かれた時代や作者の背景に触れることで主題に迫ってほしい。

子ども達は画学生の作品は戦争の悲惨さを訴えるものが多いと思っていたので、最初の作品との出会いは大切だと考えた。

鑑賞「みる・はなす・きく・かんがえる・つたえる」◎

◎伊沢洋「家族」

作者の背景を知ると絵の見方が全く変わった。

とても戦争に行く直前に描いた絵とは思えない。お金持ちでとても幸せそうな家族が描かれているが、伊沢さんは実は貧しい農家の生まれ。苦勞して東京芸大に通わせてくれた家族に一度でいいから裕福な思いをさせてあげたかったということがわかった。

戦争で犠牲になった画学生に千羽鶴を折って無言館に届けたいな。

◎◎戦没画学生に千羽鶴を贈ろう

自由時間や休み時間を利用して千羽鶴をつくり始めた。

39人でつくれば千羽はあつという間だ。

丁寧に折っていない鶴が多いよ。気持ちがかもっていない。

1つも無駄にできないはずなのに。

戦争=千羽鶴と安易に結び付けているがしばらくは見守っていこう。どうして無言館に千羽鶴を届けるのか、学習を進める中で自分達の行動を冷静に見つめ直す時期が来るだろう。

6月

◎「無言館にいらっしやい」を読もう◎

画学生にとって作品はもう一つの生命だと思う。

自由でない時代に自分の考えを持ち、作品を描いていた画学生はカッコいい。

何に対しても自分の考えをしっかりと持って伝えることが大切だ。

戦没画学生のもう一つの生命に会いに八ヶ岳の生活ではますます無言館に行きたくなくなったし、是非行くべきだ。窪島さんにも会いたい。

どうして戦争を体験していない窪島さんが無言館をつくろうと思ったのか考えてほしい。無言館は様々な人の思いや支えによって成り立っていることに気付いてほしい。

◎「無言館物語」を読もう◎

画家・野見山晴治さんとの出会いが全てのスタートだとわかった。野見山さんは戦争で自分だけ生き残った負い目を感じながら生きているということがちょうど映画「月光の夏」の主人公と重なる。

窪島さんは戦時下で貧しかった子どもの頃、貧しさを両親のせいにして親不孝を繰り返していたというには驚いた。

窪島さんも伊沢さんのように両親への恩返しのため無言館をつくったのだと思う。

無言館設立に対して国がやるべきだと反対する人もいたけれど、左右されず自分の考えをつらぬいたのがすごい。

沢山の人の募金や銀行の支援がなければ無言館はできなかった。無言館は沢山の人の思いが詰まっている。

7月

Eさんが観た無言館の番組を一度観たいなあ。

◎「無言館～レクイエムから明日～」を観よう◎

無言館に千羽鶴を本当に持って行っていいのだろうか？

美術館に千羽鶴はどうだろうか？

39人全員の気持ちがこもっていない。

無言館に届けた後、後悔しても遅い。

八ヶ岳の生活2日目の夜、リーダー会議、グループ会議で千羽鶴は持って行かないことに決まる。

7月29日 八ヶ岳の生活

グループごとに電車を乗り継ぎ長野県上田市にある戦没画学生慰霊美術館「無言館」へ◎

自分達のつくった千羽鶴は無言館にふさわしくなかった。持って行かなくてよかった。

近代美術館とは入った瞬間の空気が違った。

重くて作品から言葉が拾えなかった。

観光地化していて、違和感を感じた。イメージしていた無言館とは違った。残念。

千羽鶴を軽い気持ちで折っていた自分が恥ずかしい。やり直したい。

時間がなく、しかも観光客が多くて全ての作品とじっくり向き合えなかった。だから、2学期も学校で鑑賞を続けるべきだ。

このままでは無言館の学習が中途半端だ。もう一度じっくり作品を鑑賞しよう。そして、無言館や窪島さんに何が出来るかもう一度考え直すべきだ。

◎鑑賞「みる・はなす・きく・かんがえる・つたえる」◎

- ◎中川勝吉「高山風景」・伊沢洋「道」◎丸尾至「風景」
- ◎高橋助幹「風景」

出征する直前に描いた絵には見えない。とても穏やか。

故郷や家族への思いが伝わってくる。

やはり自由な絵のなかにも不安な気持ちが出ている。

◎◎館長の窪島誠一郎さんに手紙を書こう◎

いきなり手紙は書けないからもう一度イチから無言館の学習をふりかえることから始めよう。

窪島さんに6年1組絵で授業をしてもらえるようお願いしよう。

窪島さんに読んでもらうには中途半端な手紙は書けない。考えをしっかりとめて誰が読んでも恥ずかしくない文章を書こう。

◎12月3日 館長 窪島誠一郎さん来校！◎

忙しい中一人ひとりの手紙を何度も読み返して、全員にコメントとくれたのには感激した。

これだけ自分のやりたいことを実現させている窪島さんでも、まだもう一つの生命を探している途中だと言っていたのには驚いた。

将来、画学生のように情熱を傾けて打ち込める仕事を見つけたい。

卒業制作は6年間この学校で生活した証だから、がんばって取り組みたい。

おんがく会のCDを窪島さんに送りたい。

最後のおんがく会。無言館の学習から学んだ言葉にできないことを音楽で表現しよう。

◎◎おんがく会◎◎

合唱「HEIWAの鐘」

クラスとして最高の表現ができた。本当に悔いはない。

1～3月

誰に頼ることなく、自分自身の課題として、画布と、自分自身とじっくり向き合う中で、自分が本当に描きたいものや納得のできる表現を追い求めてほしい。そこから戦没画学生がいかに絵に情熱を注いでいたかを実感してほしい。

無言館の学習の集大成。画布に6年間附属小で生活した証を残そう。窪島さんにも見てほしい。

◎卒業制作「画布に描こう」◎

描くことは辛いけど達成感がある。

画学生はやっぱりすごい。

自分を壊して新しい世界が開けた。

絵には完成がない。

この作品は私が悩み苦しんだ結果です。満足しています。

窪島さんから手紙が届き、6年1組の「卒業制作画集」が無言館第2展示館内オリーヴの読書館に収蔵されることが決まった。

3月末